

**第6回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会
議事録**

平成25年8月2日（金） 14：00～
中津川市健康福祉会館 4階多目的ホール

【司会】 それでは、定刻となりましたので、第6回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会を開会させていただきます。

皆様方におかれましては、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、予定しておりました最後の策定委員会であり、第1部は「まちづくりビジョン策定委員会」、第2部は「まちづくりビジョン完成式典」として、「ビジョンの引き渡し式」と「講演会」の2部構成で開催させていただく日程となっております。

従いまして、本ホールにおきまして、会場を分けて設置させていただいており、1部と2部の間に、席の移動等をお願いすることになりますので、ご不便等をおかけいたしますが、お許しいただきますようお願い申し上げます。

また、中津川市ではクールビズを導入しております関係で、ノーネクタイで出席させていただいておりますので、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。

それでは、第1部のまちづくりビジョン策定委員会の開会にあたりまして竹内委員長から、ごあいさつを頂戴したいと存じます。

竹内委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】 竹内でございます。

お暑いところお集まりいただき、ありがとうございます。このまちづくりビジョン策定委員会もいよいよ最終回を迎えることとなりました。前回の委員会でも最後のようなお話をさせていただいたのですが、その後、パブリックコメントをやっていただきまして、それに基づいた若干の修正を加えて今日お手元に立派な報告書案ができております。この姿を見ただけでも大変嬉しく思うところですが、パブリックコメントがまたたくさん寄せられたという点でも私は初めての経験でございます。

いろいろな意見をたくさんの方が関心を持って、いろいろな観点からこの問題を見ておられるのだなということがわかりました。しかし、多くはリニア中央新幹線を建設するかどうかというところから始まり、それから建設に伴ういろいろな不安、それに対する対策は大丈夫かという視点のご意見が多かったようで、私どもがテーマとしております駅をつくることを利用して、まちづくりをどう進めていこうかということ、これでまとめましたこの報告書自体についてのご意見はあまりなかったようでございます。あるいは批判的なご意見はより少なかったように思います。関連するところ一部修正していただきましたが、おおむねパブリックコメントという点でも市民の皆さんのご賛同を得られるのではないかと思います。

これからこの報告書が今日採択されますと、これから市民全員の方々に浸透させていくわけでございますから、最終的な評価はそれから定まるのかと思いますが、私はこういうところまでこぎつけたことに大変喜んでおります。どうか皆さんも今日の策定委員会と第2部の講演会も楽しんで進めていただきますようお願いをいたしましてあいさつと代えさせていただきます。

【司会】 ありがとうございます。

ここで、資料の確認をさせていただきます。本日の資料でございますが、議事次第（A4：1枚）、中津川市リニアのまちづくりビジョン案に関するパブリックコメントについて（A4：5枚10ペー

ジ)、リニアのまちづくりビジョン(A4:1冊)、講師略歴書(A4:1枚)以上でございます。
不足の資料はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

報道機関の皆様をお願い申し上げます。策定委員会での写真撮影はここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本策定委員会につきましては、議事録を公開することとさせていただいておりますので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

それではこれより議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、竹内委員長をお願い申し上げます。

【委員長】 それでは議事に入らせていただきます。今日の議題はここにありますように、「パブリックコメントについて」「リニアのまちづくりビジョンについて」の2つになっております。順を追って進めさせていただきます。

まず議事1でございますが、「パブリックコメントについて」事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 「パブリックコメント」について説明させていただきます。

それでは、「中津川市リニアのまちづくりビジョン案に関するパブリックコメントについて」の資料をご覧ください。

パブリックコメントの内容及びこれに対する「市の考え方」、パブリックコメントを受けビジョンの内容を一部修正した修正案につきましては、パブリックコメントの意見の原文も含めて事前に委員の皆さまに送付し、内容をご覧になっていただき、その後、書面でご承認を既にいただいております。

そのためここでは、簡単なお説明と、委員の方より書面で1件ご意見をいただいておりますので、こちらをご紹介します。

まずパブリックコメントにつきましては、6月3日より21日までの意見募集期間に、9名の方からご意見をいただきました。さらにこれを項目、内容別に分けると30件のご意見に分かれます。

9名のうち、リニアのまちづくりに対して肯定的に、様々な考え方やアイデアをご提案いただいた方が5名、リニア中央新幹線の本体事業を含む事業自体に反対の立場のご意見の方が3名、事業自体には肯定的ですが、事業を進める上での不安や慎重に進める必要があるといったご意見をいただいた方が1名でした。

リニアのまちづくりに対する考え方やアイデアにつきましては、

- ・自然エネルギーの活用
- ・他と異なるコンセプトと現状の打破
- ・外部から訪れる方の視点と、歴史観の演出
- ・恵那山周遊地域圏として、飯田市などとの連携
- ・中山道と中心市街地の魅力あるまちづくり
- ・人づくりの重要性
- ・森林文化を活用した、地域を感じるシンボルの必要性
- ・リニア駅を玄関とする福祉施設の設置
- ・トンネル残土の利用

こういった内容が主なご意見でした。

また、反対意見や慎重にといったご意見としては、

- ・自然破壊、景観、騒音、振動、日照、電磁波、電力などに関する環境への影響
- ・地震対策、電磁波などのリニアの安全性
- ・住民生活への影響
- ・市の財政
- ・リスクの過小評価とメリットの過大評価

・農業振興地域の除外

これらを問題視するご意見と、「土地を手放したくない」といったご意見や、「リニアを考えないまちづくりを進めるべき」といったご意見などをいただいております。

これらに対する市の考え方としましては、資料の方に細かく記載しておりますが、一部のアイデアや考え方につきましては、先日送付させていただいた資料の箇所を修正し、本日お配りしておるビジョンに反映して出来上がっております。

また、反対のご意見につきましては、国や交通政策審議会での判断、これまでのＪＲ東海による説明などから、事業を進めることは妥当であると判断しており、リニアを地域づくりの千載一遇のチャンスと捉え、住民や地権者の皆さまに丁寧な説明を行いながら、リニアのまちづくりを進めていきたいといった市の考えをご説明させていただいております。

次に、委員の方より書面でいただいたご意見について紹介させていただきます。

ビジョンの追加・変更に関するご意見ですが、１１－２ふるさとを愛する心の醸成について、一言意見というか雑感を述べさせていただきます。取り組み例については、まさにその通りで、ＰＴＡだけでなく各地域でいろんな取り組みがなされており、地域と共に子どもを育てていくＰＴＣＡ活動（ＰＴＡに地域コミュニティのＣを加えたもの）が今盛んに行われております。これからも、もっと多くの地域の方々に子育てに参加していただけるような仕組み作りが必要かと思えます。このビジョンが、どのような形で実際の現場に届くのかがはなはだ疑問ですが、単なる作文に終わらないようにして行く努力がこれからの課題だと思います。こういったご意見をいただきました。

本日で、まちづくりビジョンの策定作業は終了いたしますが、これまでの策定委員会でもたくさんのご意見をいただきましたように、ビジョンをつくることが目的ではなく、このビジョンを実現していくことが私たちの仕事であり責務であると考えております。今後の取り組みについては、ビジョンの第７章にも触れさせていただきましたが、一度に全部ということはなかなか難しいですが、これからが本番となります「リニアのまちづくり」を、一歩ずつ着実に、市民の皆さまと一緒に具体化し、実現していきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。以上です。

【委員長】 それではパブリックコメントについてご説明をいただきましたので、この点について何かご質問、ご意見がありましたらお伺いいたします。いかがですか。今お手元にありますような市の考え方という回答も用意されているわけでございまして、こういうことでコメントをいただいた方にはお答えしていこうということでもあります。

よろしゅうございますか。

それではご質問もないようでございますので、パブリックコメントについて、対応の仕方は原案のとおりご承認いただいたことにしてよろしゅうございますか。

【一同】

異議なし。

【委員長】 ありがとうございます。それではご承認いただいたことにしたいと思います。

それでは続きまして、議事２「リニアのまちづくりビジョンについて」事務局からご説明お願いいたします。

【事務局】 ただいまご説明申し上げましたように、今後リニアのまちづくりビジョンを具体化して、より効果的なまちづくりを進めていくということで７章１１１ページになりますが、ここに記述しております内容を着実に具体化して取り組んでいくという感覚でございます。前期、中期、後期というなかで、当面は前期に主に計画立案、いろいろなＰＲ活動を行いながら中津川市の知名度をあげていくことを行いつつ、具体的な整備につきましては、地元や関係地域、地権者の皆様にご協力いた

だくような形でしっかりと説明をしていくということを進めてまいりたいと考えております。

特にこういった施策は多岐にわたりまして基盤整備のみならず、ソフト関係、いろいろな地域と連携して様々な取り組みを進めていく必要がございます。行政、経済界、事業者、地域といろいろな形で、複合的な組織を立ち上げ、あるいは強化し、取り組んでいく必要があると思います。当面は交流人口の拡大というところで、まず中津川の知名度をあげるような活動を進めていくことが大事だと思います。市長も申しておりますように、時速500km/hのリニアで訪れる方に時速3km/hで市内を楽しんでいただくといったまちづくりを、力をあわせて進めていく必要があると考えています。

また、本年7月に総合計画の策定に着手いたしました。基本構想については、来年の2月までに完成するという形で、急ピッチで取り組みを始めたところです。市の今後の12年間の方向を定めるものでございますが、リニアのまちづくりビジョンとしっかりと整合をとりながら、総合計画のなかで、より具体的な施策を組み立て、事業の実施計画に盛り込み、必要な取り組みについては当年度の補正予算も視野に入れながら、来年度以降、本格的に事業の具体化を図る形で考えているところでございます。

また、このビジョンにつきましては、今後パブリックコメントの結果を公表し、市民の皆さんにご覧いただいて、先ほど委員長からお話ございましたように、市民の皆さんに浸透させていくということを考えているところでございます。それから概要版を近いうちにつくりまして、各世帯に配布、ご覧いただきたいと思っております。また、秋に環境影響評価準備書が公表されるという段取りになっているようですので、より精度の高い情報がJR東海さんの方から出された場合には、そういった情報を市民の皆さんにお知らせしていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

【委員長】 今のご説明に何か質問のある方いらっしゃいますか。あるいはこの報告書の扱い方について何かご意見、ご提言などある方いらっしゃいますか。

それでは6回重ねて参りました委員会としては一番重要な決議でございますが、この「中津川市リニアのまちづくりビジョン」という報告書について原案のとおりご承認いただけますか。

【一同】

拍手。

【委員長】 ありがとうございます。それではこれにて、中津川市リニアのまちづくりビジョンは完成し、市長に答申することになります。それではこれで本策定委員会の役割も終了ということになるかと思います。どうも長い間皆さんご協力ありがとうございました。

これで本日の議事については、終了でございますが、この際まだ少し時間もございますし、全体を通して何かご発言のある方いらっしゃいましたら伺いしますが、いかがでしょうか。

【委員】 何もないようなので、質問いいですか。

大阪の方はずっと後になりますが、2045年ですと私は101歳になるんですが、そんなに遅くしかできないのですか。もっと早くやるようにして、東京・大阪間が開通しないと半分しか価値がないと思うんですけど。せめて3年くらい後には全線開通できるようにそういう陳情はできないんでしょうか。

【委員長】 今のご質問にお答えできる立場の人間はここには誰もおりません。ですから事務局に振っても仕方ないでしょうから委員長として私がまとめさせていただきますけれど、おっしゃるとおりです。私どもも本当にそういう気持ち。世の中にはそういう感触を持っている人はたくさんいます。かなり日本の国の将来ということに関心を持ち、責任を持っている立場の人たちでそういう感触を持っている方はものすごくたくさんいらっしゃる。いらっしゃるんですが、ご存じのようにこの名古屋

までの先行開業は財源的にはＪＲ東海が全部出してやるということで、着手したわけでございます。その先の話は随分後だと言っておりますが、それはＪＲ東海が全部財源を調達してやるんだとすれば名古屋までの先行開業で財政状態を確認してから着手するのでずっと後になると。こういうことなんです。

これはそういう予定と考えるよりも、このままのやり方でやればそうなっちゃいますよという投げかけでしかない訳でございます、今のご質問はそういう声をより多くの国民からあがってくるようになれば事態は動くというように思いますので、委員のようなご発言をあちこちで皆さんがやっていただくのがよいんじゃないかと。私もだいぶあちこちでしゃべっております。そういうことだと思います。勝手に委員長の判断でお答えさせていただきましたが、事務局の方で何か異論はございますか。

【事務局】 ございません。

【委員長】 ではそういうことでございます。他にご発言のある方いらっしゃいませんか。今のような本議題に関係のないようなことでも結構でございますが。よろしゅうございますか。

それではこれで私の任務も終了させていただくことにいたします。それでは進进行を事務局にお返しいたします。

【司会】 ありがとうございます。それでは次第の「その他」に入らせていただきます。始めにリニア推進坂本事務所の設置について事務局より説明させていただきます。

【事務局】 説明させていただきます。新聞報道でご存じだと思いますが、リニア推進坂本事務所開設について説明させていただきます。８月１日昨日ですが、事務所開設にあたって坂本地区区長会長の市岡様と市長に事務所看板の設置をしていただいてリニア推進坂本事務所を開設しました。今年秋には環境影響評価準備書が公表され、ルート、駅、車両基地の詳細な予定位置が明らかになる見込みです。そこでリニア中央新幹線及び関連事業に関する相談や問い合わせ等、対応することを目的としております。当面の間は２名体制で常駐をします。開設場所については、今現在ある坂本事務所内のすぐ隣に開設しましたので、報告させていただきます。

【司会】 ただいまの説明についてご質問等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは第１部の最後となりますが、策定委員会の閉会にあたりまして副委員長より閉会の言葉をいただきたいと存じます。副委員長よろしくお願いいたします。

【副委員長】 皆様方に６回に渡るまちづくりビジョン策定のご協力心からお礼申し上げたいと思います。

先ほど竹内委員長の方からこれで終結してというお言葉がございましたが、いよいよこれからが大変だなと、こういう思いを持つのがここにおられる中津川にお住まいの皆様方であろうと、こう思っております。飯田市の商工会議所の皆様方とも先週懇談をいたしました。また、もう一度会議所の人と笛吹周辺を見てこようと。その目的は２つ３つございます。１つはガイドウェイの工場はどういう状況かと、こういうことで見て参りました。ガイドウェイ工場の１つは稼働しておりました。１つはもう更地になっておりました。すなわち、あの周辺一帯のガイドウェイは役割を果たしたと。また、さらに延伸をしていくためのガイドウェイ工場。さらには、私どもはリニアを見据えてふるさと発掘ということで、いろいろ取り組んでおります。

この大変すごいビジョンの中にもいろいろなものが掲載されておりますが、その中でやはり私たちはどうしても「リニアの見える丘公園」をつくっていきたいということで、ＪＲさんにも訴えています。あるいは皆さん方もテレビ報道でなかなか騒音の問題が困難だということをお聞きになっている

と思いますが、笛吹市でトンネルから出てきた約150m、さらに向こうのトンネルから出てきた150mは、現在は空の見える状況になっております。「あれ、いけるんじゃないの」ということで、意を強くした訳でございます。

そういう中でこのビジョン策定ができた訳でございますが、今日は市の幹部の皆さん方も多数お越しをされております。過日まちづくりのコンサル契約をされております。これはリニアとは関係ないという話でしたが、ちゃんとこの報告書の結果を見ますと、リニアの云々という言葉が出て参ります。やっぱりこのビジョン策定委員会がある中でこれからこのビジョンを策定していくのに事務処理的にコンサルに出してやっていくことは私たちは容認できるものではありません。ぜひこの地域、住民の皆さん方、さらには経済界、さらにはここに関わりのある皆様方にも周知をされ、あるいは時として意見をお聞きいただきながら、コンサルとこれからやっていってもらわないと私たちの今までの作業は何であったのかと、こういうことになる訳であります。そういうことをいろいろなことでこれから行政と対比するのではなくして、連携をさらに深めていかなければよいリニアのまちづくりはできない。

ある方が私にこうおっしゃいました。「10数年後にあなたは多分相当バッシングを受けることがあるかもしれんよ」と。その言葉を聞いて大変恐ろしくなりました。すなわちリニアのすべてがバラ色ではないという問題もございます。しかし私たちはこの中津川のロケーション、正面に恵那山があり、そして背後に馬籠、妻籠があり、そして飛騨路があり、そして恵那の各地があるというこの中津川のすばらしいロケーションを利用することをこれから必死になって考えていかなければならない。こう思っております。そのことによって最近よく出て参ります高度外国人の流入といいますか、この市を訪れる人たち、すなわち高度外国人、それはリニアの車両工場もできる訳であります。建築者も来るでしょう。そういう方たちとの交流も見逃す訳にはまいらない。こう思っております。

もう1つはある方の教えをいただきました。農業の継続性ということも考えていかなければいけない。そして、農業における受け皿というものをしっかり考えていかなければいけない。さらにはバックアップ機能というものをこの中津川の地でしっかりやっていきたい。こう思っております。もちろんここにいらっしゃる皆さん方の総意ではない部分もあろうかと思ひます。しかしそういう中でやはり高度医療という問題も私たちで考えていかなければいけない。

いっぱい申し上げたいことがございます。とにかくこれからいろいろなコンサル契約もあろうかと思いますが、ぜひここにおられる地域の人たちの意見を吸収しながら進めていっていただきたい。切に切にこれを私は希望し、期待し、要望しておきたいと思ひます。これからが出発でございます。私たちは常にどういう行政が動きをしているかということをしつかりウォッチし、しつかり連携をとっていく必要があると思ひます。

いらんことを申し上げたい訳であります、この程度に今日は留めておきたいと思ひます。竹内委員長に心から敬意を表し、そして委員をお務めいただいた皆さん方のお知恵に対して敬意を申し上げます。ましてあいさつに代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

—終了—